

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読むだけでは内容理解につながらない生徒も多い。 自分の意見が書けない。 	<ul style="list-style-type: none"> スピード音読で速く読めるようする。教科書以外の物語での1冊読みを実施する。 単元毎に自分の意見を短めの文章で書かせる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 「関心意欲」をもって、調べ方を考え＝「思考」、まとめる＝「技能」、そして「知識」を増やす力を付ける。 小学校段階における、社会事象に関する基礎知識が不足していたり、偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理的分野では地図帳や地球儀を活用し、歴史的分野では資料や実物など視覚的教材を多く活用することで、社会科がより身近な事象であることを認識させ、考察させる。 小テスト、単元テストの実施
数学	<p>【主体的な学び】習熟度が高い生徒と低い生徒の格差がみられる。全体的に家庭学習の時間が少ない。</p> <p>【知識・技能】言語の意味などを理解し問題を解くことが苦手な生徒が多くみられる。習熟度の低い生徒は基本的な計算問題を解く力の定着に課題がある。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】文章を読み、関係をつかむ問題を苦手とする生徒が多くみられる。</p>	<p>【主体的な学び】授業内で発言する機会をつくり、他者の考え方を知り、自分で考える機会をつくる。</p> <p>【知識・技能】自分で問題を解く時間を授業内で多くつくる。その復習を家庭学習につなげられるように課題を指示する。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】発展的な問題に取り組み、自分で考える機会をつくる。その後グループで話し合い、伝え合っていく中で課題を解決していく力を育む。</p>
理科	全体的には、習熟度が高い生徒は少ない。低い生徒が多く見られる。家庭学習の習慣はなく、宿題もやらずに、提出する生徒が多く見られる。小学校の計算の積み残しが多く見られる。	家で学習する習慣がつけられるように。定期的に宿題や課題を出すようにしたい。授業前の集中力を高めるために、思考力問題を毎回行う。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱経験が少なく声の出し方がつかめていない。 鑑賞で音色の違いを聴き取ることやイメージと結びつけて聞き取ることが弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の解説や図を使って視覚的に捉えられるようにし、範唱をもとに聞き比べを行い、発声が身につくようにする。 具体例を挙げ、聞き取りやすい音を使って練習してから実際に曲や音をきかせる。
美術	中学校では、小学校の図画工作と異なり、造形的な視点の理解や計画的な制作が必要になるが、小学校では、身につけていないため、まずはその基礎基本の習得を図る指導をする。また、授業のルールを守らせ、しっかりした授業規律を確立する。	わかりやすく、誰でもできる内容からスタートさせ、スモールステップで学習を進める。作品制作では、完成後は十分な鑑賞とプレゼンテーションの時間を確保する。常に授業規律が守られるように指導を継続していく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での運動制限もあり、運動離れしている生徒が多く、筋力・持久力共に低い。 出来ないことをやるのが恥ずかしいと思っており、挑戦する姿勢が見られない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間基本的な運動を取り入れ、筋力と持久力を向上させる。 スモールステップで、できるようになることの楽しさを感じられる授業を行う。
技術・家庭	<p>【理解力の向上】（技術）</p> <ul style="list-style-type: none"> 理解力の差が大きく、作業の進め方に個々の力量に差が生じ、全体指導に影響を及ぼしている現状がある。 <p>【知識・技能の習得】（家庭）</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術面での差が大きいため苦手な生徒には、時間をかけて指導するなど、細かな指導が必要である。 	<p>【基礎的・基本的知識の充実】（技術）</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料の特性や特徴を学ばせ、製図の読み書き等を定着させる。 <p>【班別作業の充実】（技術）</p> <ul style="list-style-type: none"> 班ごとに作業を進め、工具の使い方等を実演して見せたり見本用に製作した作品を見せて意欲を高めたりしながら、技術の向上につながるようにする。 <p>【個に応じた作業環境作り】（家庭）</p> <ul style="list-style-type: none"> 製作等が苦手な生徒に対して、グループ学習等でお互いに教え合うような形態を工夫する。

<p>外国語 (英語)</p>	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分について、英語を使い表現する上での基本文が身につけていない生徒がみられる。 <p>【知識】【理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年の既習事項が定着していない生徒が見受けられる。 	<p>【基礎力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項について意識させ、音読練習を中心に、基本文の定着を図る。また基本文の小テストを実施し、基礎力の定着につなげる。
---------------------	---	---

令和5年度 2年授業改善推進プラン (課題分析と授業改善策)

学校番号 33 八坂中学校

	課題分析	授業改善策
<p>国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の知識が乏しい。 ・書字が苦手であり、文章を組み立てることも苦手である。 ・文章を読むだけでは内容理解につながらない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間漢字の時間を設け、3回毎に小テストを実施し、その小テストと同範囲を定期考査でも実施する。 ・構成から文章を作成する流れを毎学期行う。 ・スピード音読で速く読めるようにする。教科書以外の物語での1冊読みを実施する。
<p>社会</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度については、社会的事象に関する関心を向上させる工夫が必要である。社会という教科の特性は、新たなものが次々と加えられていくことである。歴史は積み重なっていき、政治、経済は常に変化している。そのようなことに興味をもつために、教員が実物資料を多く用意したり、タイムリーなニュースを準備して、社会的事象に関して、関心を高めることを考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野では地図帳や地球儀を活用し、歴史的分野では資料や実物など視覚的教材を多く活用することで、社会科がより身近な事象であることを認識させ、考察させる。 ・小テスト、単元テストの実施
<p>数学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算でつまづく生徒が多い。 ・文章題など、やや発展的な問題に対して負の反応を示し、取り組まずに諦めてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業や単元ごとで復習する機会をプリントなどで設け、苦手な部分をはっきりとさせる。 ・グループで取り組む時間を作り、話し合いながら問題を解決できるようにする。
<p>理科</p>	<p>習熟度の差が激しく、実験の取り組みや考察にも差が見られる。周期表や細胞のつくりなどの単純な暗記は得意な生徒が多いが、計算問題や思考問題に対する苦手意識が強い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ編成を習熟度が偏らないようにする。 ・苦手意識の強い単元や内容は、授業内での繰り返し復習や、小テストの実施、宿題で演習を行わせる。
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲に対して感受することはできるが、そこからどう表現につなげていくかという学習に慣れておらず、表現に生かし切れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気や歌詞の内容から、自分はどう感じ、強弱や声の出し方をどうしていくと良いのか考えさせる。また、表現につなげる学習を繰り返し行うことで、工夫や表現に生かせるようにしていく。
<p>美術</p>	<p>作品制作では、自由に発想し、創意工夫して計画的に進めることを定着させる。また、資料集の解説を通して美術の知識も深める。鑑賞では、プレゼンテーションも行き、コミュニケーション力を高める。</p>	<p>わかりやすく、誰でもできる内容からスタートさせ、スモールステップで学習を進める。作品制作では、完成後十分な鑑賞とプレゼンテーションの時間を確保する。常に授業規律が守られるように指導を継続していく。</p>
<p>保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことに対して、楽しく取り組むことができるが、指示を聞く・理解することについて苦手な生徒が多い。また、自ら考え行動するということが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードや学習カードを利用し、指示を耳だけでなく、文字でも伝えられるようにする。 ・リーダーとなれる存在の生徒を必ず一人配置したグループ活動を行い、自分たちで課題の発見や改善ができるようにする。
<p>技術・家庭</p>	<p>【理解力の向上】(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解力の差が大きく、作業の進め方に個々の力量に差が生じ、全体指導に影響を及ぼしている現状がある。 <p>【知識・技能の習得】(家庭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の習得と定着ができていないので、基礎・基本の定着を心掛けた学習内容にする。 	<p>【基礎的・基本的知識の充実】(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例を挙げながら説明し、作業においては安全で正しい工具の使い方を実演し、注意点を説明する。 <p>【個に応じた作業環境作り】(家庭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的・経験的な学習活動を多く取り入れられる工夫をする。
<p>外国語 (英語)</p>	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や他者について、英語を使い表現する上での基礎知識が身につけていない生徒がみられる。 <p>【知識】【理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年の既習事項が定着していない生徒が見受けられる。 	<p>【基礎力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項について意識させ、音読練習や対話活動を中心に基本文の定着を図る。また小テストを実施し、基礎力の定着につなげる。

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章講解が苦手であるし、苦手だと決めつけしまうところがある。 書く・話すでは、書くが不得手である。書くことが決まっても文章を膨らませることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習した文章講解の方法を徹底復習することで気持ちの上での壁をなくしていく。 文章をことわざや慣用句などを使って豊かに表現することも課題としていく。
社会	<p>主体的に学習に取り組む態度については、社会的事象に関する関心を向上させる工夫が必要である。社会という教科の特性は、新たなものが次々と加えられていくことである。歴史は積み重なっていき、政治、経済は常に変化している。そのようなことに関心をもつために、教員が実物資料を多く用意したり、タイムリーなニュースを準備して、社会的事象に関して、関心を高めることを考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動等による話し合い活動を取り入れ、課題解決型学習に取り組む。 常に年表や時代の流れを意識できる資料等を明示し、時代の流れを意識させる。特に近現代の部分の整理を心がける。 政治経済の様々な事象について、時事的な事柄や統計資料を活用する。授業の中で、資料を読み取り、そこから考えられる問題点を見つけ出し、解決策を考えさせる機会を増やす。 小テスト、単元テストの実施
数学	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぶという意識が低い生徒がいる。家庭学習の習慣が定着できていない現状がある。 基礎的な概念や法則に基づく計算は定着しつつあるが、知識・技能を問題の解決に活用することに課題がある。 問題を解いて正解を得ることで満足してしまう現状がある。解決のための過程を振り返り、結果の意味を条件や仮定に即して考察することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え方だけでなく、他者の考え方に触れる機会をつくる。単元毎に学びを振り返る機会を設ける。 問題を解く時間を多くつくる。計算演習において活用した基礎的な計算法則を確認する。 グループでの課題解決場面を設定し、話し合い、伝え合っていく中で課題を解決していく力を育てる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度は、真面目に見えるが積極的に発言することがなく、受動的である。今年度はタブレットを使った提出物も大半がきちんと書いて提出することができた。昨年同様、計算基礎の積み残しがあると考えられる。実験に対しては興味・関心が高く作業等一生懸命に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べ、落ち着いた授業態度で取り組んでいる。3年生という立場も良い方向に進んでいる。 授業前の、「プリント」も集中力を高めるのに一役たっている。計算練習は、課題プリントを単元ごとに出すようにしたい。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲に対して、感受することはできるが、そこからどう表現につなげていくかという学習に慣れておらず、表現に生かし切れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲の雰囲気や歌詞の内容から、作詞者や作曲者のメッセージを考え、自分はどう感じ、強弱や声の出し方をどうしていくと良いのか考えさせる。また、表現につなげる学習を繰り返す行うことで、工夫や表現に生かせるようにしていく。
美術	<p>これまで学んだ学習を総括しながら、美術文化への興味と創造的な能力を更に高め、生涯に渡り美術を愛好する心情と心豊かな生活ができる態度を養う。また、卒業後の進路を踏まえ、授業規律も徹底する。</p>	<p>わかりやすく、誰でもできる内容からスタートさせ、スモールステップで学習を進める。作品制作では、完成後十分な鑑賞とプレゼンテーションの時間を確保する。常に授業規律が守られるように指導を継続していく。</p>
保健体育	<p>男女仲も良く、自分たちで積極的に取り組むこともできるが、団体スポーツになるとできる子だけが活躍し、苦手意識を持っている子たちが、人任せになってしまう。</p>	<p>練習や試合の中で、全員がボールに触れる等の協力しなければ達成できない課題やルールを設定する。仲間と協力することの楽しさや、達成した時の喜びを全員で味わえるようにしていく。</p>
技術・家庭	<p>【知識の充実】（技術）</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピュータを用いる授業では、生徒の能力や知識の差が大きく、コンピュータの基礎・基本的な扱いから指導していく必要がある。 <p>【知識・技能の習得】（家庭）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら工夫し、創造していく力を高めるよう促していく。 	<p>【ネットワークの活用と知識の充実】（技術）</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味関心の高いネットワークを題材とする。生活や社会を支える情報技術やコンピュータのプログラムなども指導していく。興味関心から知識の充実をする。 <p>【個に応じた作業環境作り】（家庭）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況に応じた題材を選び、作業内容を順序立て進めるようにする。

<p>外国語 (英語)</p>	<p>【表現】 ・既習事項を使って即興で話すことに困難を感じる生徒が見られる。</p> <p>【知識】 【理解】 ・今までの学習の知識が定着していない生徒が見受けられる。</p>	<p>【基礎力の定着】 ・既習事項について意識させ、音読練習や対話活動を中心に基本文の定着を図る。また小テストを実施し、基礎力の定着につなげる。</p> <p>【コミュニケーション能力の育成】 ・多くの場面で英語でコミュニケーションをとれるように、多様な場面設定での対話活動を増やしていく。</p>
---------------------	---	---